

①なぜ5県の花火は世界一なのか。

「よし、世界一の花火をたくさん観よう」。これは、名古屋経済大学での勤務が決まった際に、すぐに頭に浮かんだ言葉だ。

愛知県、三重県、岐阜県の東海三県に加え、近隣の静岡県や長野県を含む5県の花火は、歴史、質、量においてハイレベルなのだ。日本で最初に花火を見物した人物は徳川家康だそう。そこから花火の技術が当時岡崎市にあった幕府の火薬製造所に伝わり、駿府や三河で花火作りが盛んになったらしい。

そのため、三河は日本の

## 世界一の花火で世界を幸せに

のうち、上記5県の花火師が制作したものは35%を占める。さらに、日本煙火協会によれば、会員の2割はこれらの地域の花火師、全国の花火大会の26%はこれらの地域で開催されている。

私は、日本の花火のレベルは世界一と信じている。さまざまな色に変化しながらバランスよく輪を描いては瞬時に消える。キティちゃんが現れたり、音楽に合わせて光の粒が乱舞することもある。これらはかなり高度な技術の集積であり、ここまで私たちの五感にアピールしてくる花火は日本以外にはない。

つまり、5県の花火は日本のトップクラスであり、そして日本の花火は世界のトップクラス。すなわち、私たちが住む地域の花火は世界一なのだ。私のような

える企画は魅力的であるに違いない。

第二に、花火を輸出することだ。日本の花火は極めて質の高いブランド力のある商品だ。経済産業省や日本投資政策銀行、日本煙火協会の調査によれば、国内の花火師の数は減少している。煙火消費許可の数は、2018年度は6千件ほどあるが、4年前に比べれば500件程度減っている。花火を海外に売り込むことは花火産業ひいては地域経済を活性化させることにつながるはずだ。

その際には、「花火玉」のみならず「花火大会」を輸出することも考えたい。花火の製造、販売、打上の企画や演出などをパッケージとして輸出するのだ。このような動きは、秋田県大仙市で始まっているが、花火のメッカでありシリコンバレーでもより積極的に行ってほしい。

# 高度な技術の結晶

## 好転のきっかけに

花火発祥の地と言われている。また、私の故郷である秋田県で毎年行われる全国花火競技大会では、過去5年以内に入賞した花火作品



名古屋経済大学国際交流センター長兼経済学部教授  
中津 将樹

花火好きにとって、これらの地域は花火のメッカでありシリコンバレーなのだ。

②花火を世界の人に この世界一の花火を、より多くの世界の人に観てほしい。では、そのためには何をしたらよいだろうか。

第一に、外国人を花火大会に連れていく仕組みをつくることだ。日本は、昼に行く観光地は多くあるが、夜に楽しむ場所は少ないといわれている。夜に玩具花火体験や花火大会見物を加

花火は私たちが幸せな気持ちにしてくれる。コロナ感染症による自粛時に一部の花火師が無病息災や悪疫退散、五穀豊穡、そして私たちが元気づけるために花火を自主的に打ち上げたことが話題になったが、これは花火がもつ力を私たちに証明してくれた。

今、世界はコロナ感染症のため、経済は悪化、人々の気持ちも落ち込んでいる。これらを好転させるきっかけとして、あるいは好転した際に、世界一の花火を世界に披露したい。なぜなら、花火は人々を幸せにすることができるともっているのだから。

なかつ・まさき 国際交流論。  
日本大学大学院総合社会情報研究科博士課程満期退学。1962年生まれ。

